

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2012(平成24)年4月末現在	
総人口	320,419 (2,166)
男	154,589 (1,075)
女	165,830 (1,091)
世帯数	139,372 (1,235)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	

- 気になる生活習慣
- 那覇市はあなたの
- 子育て応援団
- 市政功労者(11人)
- を表彰
- ホタルを見つけよう
- 情報バック

6・7 5 4 3 2

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市上之屋1丁目2番1号
☎867-0111 ●印刷(株)近代美術

終わらない戦後

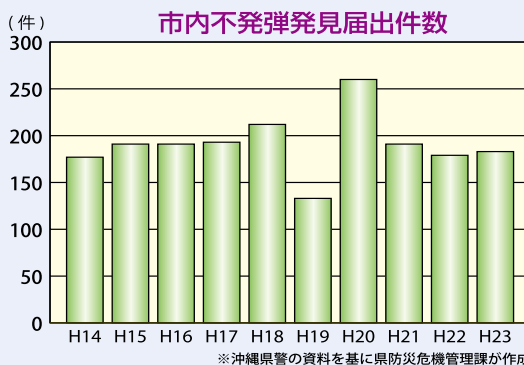
今なお地中に眠る沖縄の不発弾

今なお地中に眠る多くの不発弾は、私たちに、いまだに終わらない戦後を突きつけ、あの日の恐怖を呼び起こします。

わずかな衝撃で爆発する危険性のある不発弾。その上で暮らす私たち。その安全化処理には、一説では今後70年から100年かかると言われています。

危険と隣り合わせの私たちの生活は、いつまで続くのでしょうか…

お問い合わせ 市民防災室 ☎861-1102



市では、毎年約2百発の不発弾が発見されています(図1)。そのほとんどがこのような工事中に偶然発見されているのです。運良く何事もなく掘り返されていることが多いものの、いつ爆発が起こるか分からない危険と隣り合わせの工事が日常的に行われているのです。

住民が背負う負担

市では、不発弾処理の際の市民への影響を最小限に抑えるために、県内で初めて「ライナープレート」という高い強度を持つ鋼板を活用しています。これにより避難半径を狭めるとともに、陸上自衛隊(第15旅団第101不発弾処理隊)の協力のもと、安全に処理が行われるよう努めています。

危険と隣り合わせ

不発弾は、投下の際に起爆装置(信管)の安全機構が外されていることから、少しの衝撃でいつでも爆発する危険性を持っています。実際これまでに、工事中に重機が不発弾に触れて大惨事となった事故も起こっています。また、市街地の中心部(那覇市牧志)で、作業中の重機に不発弾が挟まれて姿を現したこともありました。危機一髪で爆発は免れたものの、あと数センチずれれば、多くの犠牲者を出していたものと背筋が凍る思いです。



ライナープレートを使った安全化処理作業

安心して暮らせるまちに

私たちは、不発弾に慣れてしまつてはいないでしょうか。いつよみがえるか分からない67年前の恐怖を、1日も早く消し去り、安全な土地にしなければなりません。歴史的背景から不発弾処理は国に大きな責任があることを認識し、国が戦後処理の一環として取り組んでいくことを望みます。

直撃インタビュー(工事現場の声)

主に民間住宅の建設に携わっていますが、だいたい一つの工事に1つは不発弾がでてきます。費用のこともあり、事前の磁気探査などはほとんど行っていません。出てきた時に警察や消防に連絡を入れて回収してもらい、その後も慎重にはありますが、作業を継続しています。あと、特に多く埋もれているという事前情報のある土地では、慎重に掘り進めるようにしています。



不発弾などの探査要望箇所を募集します

県では、不発弾などの早期処理に向け、土地整備を行う、または家を建てる予定の土地に、不発弾が無いかわかりたい。該当する方は、ぜひお申込みください。

【対象】①探査予定面積が百㎡を超えること。

②地主および小作人が不発弾等探査・発掘に同意していること。※その他にも要件がありますので、お問い合わせください。

【申し込み】6月8日(金)までに、総務課市民防災室(消防庁舎3階)で申し込み。

【費用】個人負担は一切ありません。

【お問い合わせ】市民防災室 ☎861-1102

協働さん



市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第16回
なはまちづくりネット

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846



NPO法人 なはまちづくり
ネット 大城 喜江子さん

第16回は、NPO法人なはまちづくりネット、代表理事の大城喜江子さんです。

Qどのような目的で、活動されていますか

地域住民(在勤)のみならずを対象に、社会教育、生涯学習、そして地域福祉の向上に関する活動を行っています。また、それらの情報交換の場を作るなど、地域の人たちの交流のお手伝いもしています。そうすることで、地域住民(在勤)のみなさんが、豊かで意義ある生活を送れるようになることを目的としています。

住民主体のまちづくり

Q理想のまちづくりとはどのようなものですか
そこに住んでいる人が主体性をもって行動していくことが理想です。また、一人の思いを大切に、協力しながら、みんなでのしくワイワイ活動していきたいです。地域にあるものを大切にしながら広めていきたいです。まちづくりをしていきたいです。



大豆の種まきを小学校で教えているところ